



令和2年11月30日

南相馬市議会議長

会派名 改革クラブ
代表者氏名 代表 渡部 一夫



調査研究報告書

- 1 期間 令和2年11月16日（月）～令和2年11月17日（火）

- 2 参加者 ① 渡部 一夫 ② 小川 尚一
③ 竹野 光雄 ④ 鈴木 真正
⑤ ⑥

- 3 旅行先及び調査研究内容 別紙のとおり

会派「改革クラブ」先進地視察研修報告

2020年11月30日

改革クラブ 代表 渡部 いっぶ

先進地視察研修期間 2020年11月16日～11月17日(2日間)

先進地視察研修先 岩手県

11月16日(月) 岩手県・大船渡市「市民活動支援センター」

調査項目「東日本大震災後における市民活動と支援」について

14:00～15:30

11月17日(火) 岩手県二戸郡一戸町・御所野縄文博物館

調査項目「御所野遺跡」について

12:30～14:30

【研修内容】

11月16日(月) 岩手県・大船渡市「市民活動支援センター」

調査項目「東日本大震災後における市民活動と支援」について

14:00～15:30

内容

1、市民活動支援センターの設置運営について

(1) 震災後の設置の経緯について

【背景】

市内団体間(震災前からある市民活動団体・復興支援団体・地域コミュニティ組織など)の交流や協同、市民活動団体の明確な相談窓口がなく、市民活動資源を活用できていなかった。

【目的】

市民活動団体の情報共有・交流の基盤、さらなる活動促進に向けた相談体制を構築することによって、市民活動団体活動促進、協働の推進につなげ、さらなる復興活動促進に向けた基盤を構築する。

【経緯】

2013年9月 大船渡市民活動支援センター 設置(公設民営)

大船渡市と大船渡市で震災前から活動するNPO、震災後に活動を開始したNPOが協働で事業を実施するために、大船渡市市民活動支援協議会を設立して運営にあたる。

団体ヒアリングを主に実施。

2014年2月 サンリア移転(ゆめサポート)

スキルアップ講座開始・相談窓口設置

2018年2月 NPO 法人おおふなと市民活動センター 設立

(別名：NPO 法人CAVO)

中間支援のみならず、活動の幅を広げ、より良い大船渡に貢献できるようにNPO 法人化。新規事業開始に向けて活動を開始。

2018年4月 市民活動支援センター業務の他にも事業を委託。自主事業にも着手

し、大船渡を支える仕組みづくりに取り組む。

【活動】

①情報収集・発信（団体情報、助成金情報など）

- 団体活動ファイル作成（新聞記事等）
- 団体データベースの構築（団体ヒアリング等）
- 助成金、セミナー等情報の収集・発信（WEB等）
- 団体活動情報の発信（WEB・新聞・広報等）

②市民活動団体の交流・スキルアップの場づくり

- 市民活動まつりの開催（1年に1度年度末に実施）
- 学ぼう会の実施
- 市民活動団体支援事業補助金報告会
- NPO フォーラム開催

③市民活動促進・協働推進に向けた相談窓口の構築

- 相談窓口の開設
- 市民相談に関わる相談への対応

④市民活動に関わる人の拡大

- フードドライブ窓口の設置（フードバンク岩手・食料を集める窓口）
- ユネスコ寄付窓口
- 椿の実回収窓口（市の花）

⑤外部団体との情報共有

- 中間支援ミーティング参加（釜石、陸前高田、IFC）・センターの仲介
- 中間支援ネットワーク参加（岩手県全域）
- NPO サポートリンク参加（岩手県北～福島県）・岩手・宮城・福島

⑥地域づくり

- 地域運営組織構築のためのワークショップ
- 住民の地域づくりへの意識の醸成（住みやすい、魅力ある）まちづくり
RMO 雲南市

⑦高校生支援

- 総合探求の社会リソースとのマッチング
- 企画立案の相談対応

(2) NPO 法人おおふなと市民活動センター

【おおふなとまちもり大学運営事業】（高校生の参加、やりたいことを（冬の学園祭）

（株）キャッセン大船渡のエリアマネージメントの一環として、まちづくりに関わる担い手の育成を目的とした学び舎の運営。

- ・ おおむね月 1 回の講座開催
- ・ イノベーションコンテストの開催
- ・ まちもり参加者の事業実施の伴奏支援

【生活支援コーディネーター事業】

大船渡市における地域包括ケアシステムの体制整備事業のコーディネートを行っている。

- ・ 地区版助け合い協議会のスキルアップ、運営などの支援
- ・ 関係各所のパイプ役
- ・ 市版助け合い協議会の会議等支援

【被災地支援コーディネート事業】

岩手連携復興センター（IFC）と協力して、被災地で活動する団体の活動全般に関する課題解決を図っている。

- ・ 団体ヒアリング
- ・ IFC、三菱総研との会議
- ・ 課題解決に向けた方策の実施

【コミュニティ構築事業】（県補助金）

大船渡駅周辺の移転者等に向けたテーマ型コミュニティの構築。

- ・ 健康体操実施
- ・ ものづくりワークショップを中心とした交流イベントの実施

【その他の事業】

- ・ ファシリテーション
子育て支援ネットワーク会議（市で実施）など
- ・ 調査

2、市民活動の取組みについて

(1) 行政独自の支援策について

- ・大船渡市市民活動支援事業補助金
- ・大船渡市特定非営利活動法人事業継続支援金

(2) 行政との連携・協力について

市民活動団体の活動状況を共有しながら、特に現在はコロナ禍における支援などを検討。また、地域づくりにおいて進め方等を検討する段階で協議しながら進めている。

感想

1、大船渡市市民活動支援センターの活動領域がこれ程までとは思ってもみませんでした。また、自分たちの立ち位置というか、すべきこと、していこうとする心意気に、私もこうありたいと思わされました。

1 時間や 2 時間の研修ではさわり程度でもったいないと思って研修を終わりました。

2、まちづくりに高校生が参加することは、近い将来小中学生の参加になるような気がしてなりません。100年のまちづくりではありませんが、次世代につながる取り組みになるような気がします。言葉をどう実践に結び付けて行けばいいのかも示唆しているような気がしました。

11月17日(火) 岩手県二戸郡一戸町・御所野縄文博物館

調査項目「御所野遺跡」について

12:30~14:30

内容

一、遺跡の概要

(1) 遺跡の概要

御所野遺跡は、約4,500~4,000年前(縄文時代中期後半)のムラのあと(集落遺跡)です。遺跡は、八戸湾に向かって北流する馬淵川に注ぐ2つの支流(地切川と根反川)にはさまれた東西に細長い大地の上に立地しています。遺跡の南側を流れる根反川の川沿いには、珪化木が多く露出しており、国の天然記念物に指定されている地帯となっています。

縄文時代の御所野ムラは、東西500m、南北約120mの細長い大地のほぼ全面に広がっており、竪穴住居がつけられる場所や施設の内容が変わりながら、約500年間にわたって続いたと考えられています。

(2) 御所野ムラの人々の暮らし

焼失住居跡の調査などから、御所野ムラの人々が建築材や食糧として、クリをはじめ、トチノキやクルミなどを大切に利用していたことが明らかになっています。矢じり(石鏃)などの石器の材料には、遺跡の南側を流れる根反川から採れる珪化木のほか、秋田方面から運ばれたと考えられる珪質頁岩が利用されました。矢柄への装着の際には、秋田や新潟からもたらされたアスファルトが接着剤として利用されています。500年にもわたって御所野にムラが営まれた理由は、有用で多様な資源が得やすい立地であることや、広範なネットワークに根ざした道具づくりなどが背景にあったと考えられます。

(3) 墓と送りの場を持つムラ

約4,000年前(中期の終わりごろ)になると、遺跡の中央付近には、様々な形に並べられた組石や立石が東西2つのサークル状に広がる「配石遺構群」がつけられるようになります。東側の配石遺構では、組石の下や周辺から長さ1mほどの楕円形の穴が見つかり、墓穴と考えられています。

御所野遺跡の周辺には、この時期の集落遺跡が分布していますが、このような配石遺構をもち、祈りや祭りの道具が多く出土する遺跡は御所野遺跡に限られます。縄文時代の御所野ムラは人々のお墓がある周辺地域の拠点的なムラとして、送りなどの儀式やまつりなども行われていたでしょう。

2、御所野遺跡の整備について…整備基本計画の概要(保存活用計画)の概要

【御所野遺跡の整備について】

御所野遺跡縄文公演は「御所野遺跡環境整備事業」として次のように計画され、事業が実施されました。

1、基本理念 「歴史・自然環境と地域文化の共生」

2、基本方針

- (1) 歴史と景観の保全
- (2) 学習と体験の場
- (3) 文化財の中核施設
- (4) 観光と憩いの場

3、整備概要

(1) 史跡保存・復元地区

設計・工事監理 (株) 創宇舎 仙台

史跡指定地内 (指定面積 75,842 m²) に縄文時代のムラを再現

○東ムラ 縄文時代の生活を体験するため竪穴住居 (4 棟) 復元

○中央ムラ ストーンサークル (実物展示)、竪穴住居 (4 棟)、掘立柱建物 (3 棟) 復元

○西ムラ 竪穴住居 (4 棟)、掘立柱建物 (1 棟) 復元

(2) センター施設 (御所野縄文博物館) 建設

設計・工事監理 (株) 環境デザイン研究所 東京都

鉄筋コンクリート 2 階建

延べ面積 2,695.24 m² (敷地面積 6,121 m²、建築面積 1,534.24 m²)

内訳

・埋蔵文化財センター建設事業分 1,501.35 m²

・地方拠点整備事業分 1,193.89 m²

4、御所野縄文公園面積

(1) 御所野縄文公園敷地面積

史跡指定分 75,842 m² (H5.12.21 指定 54,675 m²、H18.7.28 追加指定 21,267 m²)

指定地外 53,743.52 m²

合計 129,585.52 m²

(2) 駐車場

第 1 駐車場 2,432 m² (大型バス 5 台、乗用車 49 台、身障者用乗用車 2 台)

第 2 駐車場 700 m² (乗用車 17 台)

第 3 駐車場 1,050 m² (乗用車 32 台)

合計 4,182 m² (大型バス 5 台、乗用車 98 台、身障者用乗用車 2 台)

二、具体的な取組み内容について

1、連携体制行政

(1) 行政連携

【御所野事業推進室】

◎総務部 まちづくり課

御所野事業推進室…駐車場や案内施設等の御所野遺跡周辺の基盤整備や広域的な世界遺産登録推進体制の整備、機運の醸成など町全体に係る御所野に係る事業の推進を担う

- ・職員体制 室長 室長補佐 (兼務) 商工観光課・地域整備課・水環境課・世界遺産登録推進室

【推進本部・岩手県】

縄文遺跡群推進本部(青森県)・岩手県文化スポーツ部、教育委員会・二戸地域振興センター

(2) 住民連携

ボランティア活動

御所野遺跡では現在、「自然と歴史の会」、「御所野遺跡を支える会」、「御所野発掘友の会」という3つのボランティア団体が活動中である。それぞれの団体で、会員の能力に合わせた活動を展開し、遺跡のガイドやイベント・縄文体験の補助、調査研究など、様々な場面で御所野遺跡を支えている。

平成19年度にはこれら3団体が相互に連携交流することを目的に「御所野遺跡ボランティア連絡協議会」が発足した。地域の団体や、御所野遺跡世界遺産登録推進協議会とも連携しながら活動の幅を広げている。

・「自然と歴史の会」

平成8年度に御所野遺跡の整備事業計画を受け、当時の一戸文化財調査専門委員が中心となって発足した。御所野遺跡で現在活動しているボランティア団体のうち、最も古い団体である。郷土の自然や歴史について情報の交換や研鑽を目的に活動している。

御所野遺跡の清掃活動や町内史跡の刈払いなどの文化財の美化活動、町内の歴史や文化財に係る研修会や地質・植物の観察会を主な事業として行っているほか、会員の郷土史・植物への造詣の深さを活かし博物館が実施する調査に協力してもらうこともある。

平成11年度春には、「御所野遺跡ボランティアガイド養成講座」を開催し、現在のボランティアガイドの素地を作り上げた。このボランティアガイドにより組織されたのが「御所野遺跡を支える会」である。

・「御所野遺跡を支える会」

御所野縄文公園来場者に対する案内や、博物館の展示解説を行っている。御所野縄文公園の保存整備活動のさなか、ボランティアとして参画したいという町民の要請を受け、「御所野遺跡ボランティアガイド養成講座」を受講したメンバーが中心となり平成13年度に設立した。ガイド以外にも体験・イベントの補助、そして下記のとおり多岐にわたって活動しており、御所野遺跡を活用・運営する上で欠かせない存在である。

活動方針は「無理せず 楽しく コツコツと」である。

平成19年度に7周年、平成24年度に10周年を記念し、それぞれ記念誌「足跡」を発行した。

◆ガイド以外の活動

・竪穴住居の火おこし・火おこし体験の講師・縄文食部会・ホテルの里づくり

・「御所野発掘友の会」

一戸バイパス工事に伴う発掘調査から端を発する御所野遺跡や一戸町内の発掘調査に携わってきた作業員の親睦団体であり、平成16年度に発足した。会員の大半を町内の女性が占め、月に一度の定例活動で御所野遺跡公園の清掃を行うほか、春秋のクリーンデーの参加者

への昼食提供、イベントでの郷土料理の販売、博物館で販売するグッズの製作など、活動内容は多岐にわたっている。

三、世界遺産登録を目指す「北海道・北東北の縄文遺跡群」

縄文文化は、自然と人間が共生し、1 万年以上もの長きにわたって営まれた世界史上稀有な先史文化であり、「北海道・北東北の縄文遺跡群」は縄文文化を今に伝える貴重な文化遺産です。

この縄文遺跡群を未来に引き継ぐため、北海道・青森県・岩手県・秋田県の4 道県並びに関係自治体では連携・協力して「北海道・北東北の縄文遺跡群」の世界遺産登録を目指し取り組みを進めています。

「北海道・北東北の縄文遺跡群」

- ・史跡 大船遺跡 函館市
- ・史跡 垣ノ島遺跡 函館市
- ・史跡 キウス周堤墓群 千歳市
- ・史跡 北黄金貝塚 伊達市
- ・史跡 入江・高砂貝塚（入江貝塚） 洞爺湖町
- ・史跡 入江・高砂貝塚（高砂貝塚） 洞爺湖町
- ・特別史跡 三内丸山遺跡 青森市
- ・史跡 小牧野遺跡 青森市
- ・史跡 大森勝山遺跡 弘前市
- ・史跡 是川石器時代遺跡 八戸市
- ・史跡 田小屋野遺跡 つがる市
- ・史跡 亀ヶ岡石器時代遺跡 つがる市
- ・史跡 大平山元遺跡 外ヶ浜町
- ・史跡 ニッ森貝塚 七戸町
- ・史跡 御所野遺跡 一戸町
- ・特別史跡 大湯環状列石 角館市
- ・史跡 伊勢堂岱遺跡 北秋田市
- ・史跡 鷺の木遺跡 森町
- ・史跡 長七谷地貝塚 八戸市

感想

1、本市にも史跡・遺跡がありますが、御所野遺跡の取り組みを見る限り、心して取り組まなければ後世に伝える何かが判然としなくなるような気がします。

お金をかければ良いということではありませんが、何をどうしたいのか、その時には出し惜しみせず英断をもって進めることが求められると感じました。